

科目名 Course Name	国際文化論入門 Cultural Studies			ナンバリング No.	A2-011		
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	廣澤 圭則						
連絡方法	質問等は授業終了後、あるいはC-Learning で対応。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2, DP3, DP4						
授業の概要と到達目標	<p>古代～近代のヨーロッパ、アジア文化史について、学習を行うものとする。</p> <p>① 本講義を通して、世界における文化の成り立ちについて学ぶことができるようにする。</p> <p>② 国際文化論について、深い教養と洞察を身に付けることができるようにする。</p> <p>③ 世界の歴史を学ぶとともに、国際文化の基礎的知識を習得できるようにする。</p>						
授業の方法	<p>パワーポイントを用いた講義形式にて授業を行う。</p> <p>補足教材として、レジュメを授業毎に配布する予定。</p> <p>生徒諸君の理解度を図るため、期末試験に該当するプレゼンテーション発表を実施する。</p>						
学習成果	L01	国際文化の礎となる諸概念について学ぶことができる。					
	L02	学習を通して、国際文化の歴史について考察することができる。					
	L03						
	L04	現代の国際文化の現状についての議論、推察をすることができる。					
課題に対するフィードバック	授業について質問があった際はメールまたは文書にて各自フィードバックする。						
教科書/参考図書	なし						
履修上の留意点やルール等	<p>① 折を見て質問を投げかけるので、生徒諸君は質問に回答できるようにしておくこと。</p> <p>② チャイムが鳴った後の遅刻は原則認めず、減点対象とするので注意すること。</p> <p>③ 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。</p>						
担当教員の実務経験	<p>●実務経験(職種:サービス業 職歴:15年)</p> <p>(科目名:国際文化論入門) 民間企業における管理職経験から社会人になる生徒諸君が自分で考えたことを、自分の言葉で話せるよう、講義を通して導いていく。</p>						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業に参加する積極的態、こちらからの質問に対して自身の意見を明瞭に述べられた場合は満点とする。		15		
レポート/作品	出欠確認も兼ねたレポートを提出してもら。授業に対する理解が反映されていた場合、既定提出回数に到達した場合は満点とする。		15		
発表	プレゼンテーションを実施してもら。発表内容と質疑応答について、自身の考察が明瞭かつ論理的に述べられていた場合は満点とする。		20		
小テスト	授業の理解度を示すため、適宜実施する。		5		
試験	ペーパー試験を実施。出題された内容について、論理的、明晰に回答できた場合は満点とする。	45			
その他					
合計		45	55		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(学習成果、成績評価等について)、イントロダクション
	事前・事後学習	授業開始に向けて、下記の専門用語を自分なりに調べて準備しておくこと
2	授業内容	国際関係論はどのような学問なのか
	事前・事後学習	国際関係論という学問について、簡潔でよいので調べておくこと
3	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのか
	事前・事後学習	第一次～第二次世界大戦、冷戦などの用語について予習しておくこと
4	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか
	事前・事後学習	9・11、テロとの戦い、ネオコンなどの用語について予習しておくこと
5	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのか
	事前・事後学習	グローバリゼーションについて質問するので、答えられるようにしておくこと
6	授業内容	現代の安全保障をどう読むのか
	事前・事後学習	安全保障という概念について、予習しておくこと
7	授業内容	北東アジアの政治と国際関係
	事前・事後学習	日中韓の3国関係の歴史について、自分なりの見解を述べられるようにしておくこと
8	授業内容	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか
	事前・事後学習	戦後における日本の動きについて調べておくこと
9	授業内容	国際関係理論とは何か リアリズムとリベラリズムについて
	事前・事後学習	リアリズムとリベラリズムについて、自分なりの見解を述べられるようにしておくこと
10	授業内容	リージョナリズムと欧州統合
	事前・事後学習	EU(ヨーロッパ連合)の概念について予習しておくこと
11	授業内容	南北問題をどう解決するのか
	事前・事後学習	先進国・発展途上国間の格差問題について予習しておくこと
12	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか
	事前・事後学習	ジェノサイド(大量虐殺)や民族浄化について予習しておくこと
13	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか
	事前・事後学習	昨今の気候変動、森林破壊、海洋汚染について予習しておくこと
14	授業内容	講義の振り返り、復習
	事前・事後学習	これまでの授業で不明だった点、復習してほしい点について考えておくこと
15	授業内容	学生によるプレゼンテーション
	事前・事後学習	プレゼン発表者は事前準備をしておくこと